

コーパスを用いた日本語基本多義動詞「切る」の意味構造分析

——認知意味論の観点から——

森 山 新

1. はじめに

言語の学習に語彙が重要なことは言うまでもない。しかしながら、第二言語習得研究の分野で語彙習得研究は近年こそやや盛んになってきたが、長年、文法習得研究などに比べ遅れが指摘されてきた（長友、1999：12）。また授業で語彙を扱う時間は少なく、語彙シラバスもそれほど用いられていない。このようなことから語彙学習は学生一人ひとりの独学に委ねられることが多く、それだけに辞書開発の重要性は高くなる。

一方、基本語彙は一般に多義であることが多く、基本語でありながら、文脈により様々な意味で用いられるため、学習者はその全体を習得できず、中心義や自身の母語に対応する語義のみを習得し、その他の語義は学習段階が進んでも一向に習得できないということが起きる。

このような背景もあり、近年、認知意味論の立場から、多義語について、単に語義の羅列にとどまらず、語義間のネットワーク関係や動機づけ（語義がどのように動機づけられて拡張しているか）といった情報を辞書に盛り込み、学習者の語彙学習の負担を軽減しようという試みが始まっている。認知意味論では多義語はプロトタイプである中心義を中心に何らかの動機づけに基づいて語義が拡張し、1つの放射状カテゴリ（Lakoff, 1987: 91-114）が形成されるというプロトタイプ・カテゴリ観を採択しており、多義語研究に多大な貢献をしている。本稿で認知意味論の理論的枠組みを採用するのもそのような理由による。しかしながら、認知意味論に基づいて作成された辞書であっても、意味構造の記述は辞書間で一致しないことが多く、学習者に新たな混乱の材料を与えている（森山、2016：231）。

認知意味論の観点から多義語の意味構造に関する研究で最も研究が進んでいるのが、動詞「切る」である（次章参照）。しかしながらこのように研究が進んでいる「切る」でさえ、これまでの研究では、以下で詳しく述べるように、様々な使用の場面で異なる意味を持つ「切る」の意味が網羅的に明らかにされたとは言い難い。語義を網羅的に分析するには、何よりも大規模コーパスを用いて様々な用例にあたり、分析することが有効であろう。

以上のような理由から本稿では、日本語基本動詞「切る」を取り上げ、その意味構造について、コーパスを用いて網羅的に分析することを目的とする。

2. 先行研究

認知意味論の観点から「切る」の意味構造を分析したものに、許（2008）、遠藤（2008）、森山（2012、

2015)、今井(2016)などがある。

許(2008)は、本動詞「切る」を7つの別義に分け、その多義構造を分析している。それによると中心義は(1)のようなものであるとしている。

- (1) 〈人間・動物が〉〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉
〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉〈分離する〉

ここで問題となるのは、動詞の意味分析にあたり、実際の用例で動詞に共起する項について、十分に配慮がなされていない点である。動詞にはその用法によって共起する項が決まっており、動詞の用法とどのような項が共起するかは表裏一体の関係にある。したがって動詞のそれぞれの用法の意味を記述するにあたっては、どのような項が共起するかを重視し、注意を向ける必要があろう。許が(1)の例文として挙げている文は、

- (2) 花子がナイフでパンを切る。

であり、項としてガ格、デ格、ヲ格が共起している。「花子」が動作主でガ格、「ナイフ」が道具でデ格、「パン」が被動作主でヲ格によって表されている。しかし、(1)の意味記述では、ガ格の意味記述には動物が加えられく人間・動物が>となっている。また、ヲ格は〈一続きにつながっている〉〈固体に対し〉と2つの意義素で示されている。さらにデ格に対応する意味記述はなく、その代わりに、〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉が加えられている。許(2008:304-305)では、デ格に対応する意味記述がない理由について、刃物のような道具を必要とせず、デ格を共起しない用法(例えば「犬が鎖を切って逃げた。」)もあるためとしている。しかし、「犬が道具を使わずに切る」用例を典型的な用例に含める必要はない。「切る」が意志動詞であることを考えれば、典型的な「切る」の事態とは「人」が「刃物のような道具」を使い、「意識的に一続きの物を分断する」場合であろう。そして道具を使うことが多いのであれば、典型的な動作主は「人」であろう。また、〈集中的な力を加えて〉〈力を加えた位置で〉は項で示されていないことから、背景的な意味と考えるべきであり、項で示されることの多い、刃物のような道具に比べるとその重要性が高いとは言い難い。「切る」の意味記述にとってより重要な、デ格で表される項に関する意味記述がないのは問題であろう。但し、(2)が「切る」の中心的用例であるという点は、だれも異論がないであろう。

遠藤(2008)では「～を切る」の意味用法を「～を割る」と比較しつつ分析している。この研究では、「切る」のスキーマは(3)のようなものであるとしている。

- (3) 一続きのものを力を加えて離れた状態にする

「切る」は「N1がN2をV」の構文をとり、N2の意味範疇により(4)のI～VIの6つに分類している。ここで問題なのは、「切る」の多義がヲ格の意味範疇のみによって分類されている点である。もちろん、他動詞にとってどのような目的語を取るかは意味記述にとって最も重要である。しかし、他動的な事態は典型的にはガ格、ヲ格を必須の項とし、デ格が共起することも多いことを考えると、ヲ格のみで意味分析を行うのは疑問が残る。例えば、他のほとんどのガ格が人であるのに対し、[V]では「記録」のような無生物となっている。また、[VI]としてその他を設け、先行研究で見解が分かれることを理由にして分類

を保留にしている。見解が分かれるからこそ、自身の見解を述べるべきであって、この点も問題が残る。

(4)

[I]N2が固体の具体物の場合。

[a]一続きのものを、刃物などを用いて離れた状態にする。「大根を～」

[b]対象物が分離しない。「手を～」

[c] (N2が人の場合) 殺す。「罪人を～」

[d] (N2が臓器の場合) 外科手術を行い切って取り除く。「胃を半分～」

[e] (N2が袋状の物の場合) 切って開ける。「封を～」

[II]N2が液体や気体の場合。道具は現れない。

[a]空気や水の中を突き進むように動く。「風を～」

[b]付着した水分・油分を何らかの方法で取る。「野菜の水を～」

[III]N2が人や組織の場合。

[a]隠された内容を外に出す。「世相を～」

[b]除く。捨て去る。「反対するものを～」

[IV]N2が (近くでは捉えにくい) つながっている状態のもの

[a]一続きのものを力を加えて離れた状態にする。「電源を～」 「縁を～」

[b] (N2が時間的に継続する事態) 休止・中止する。「いったん話を～」

[c] (N2が時間そのもの) 休止・中止する。「期限を～」

[V]N2が数値の場合。ある数値を下回る。「目標の11秒を～」

[VI]その他の場合 「小切手を～」 「啖呵を～」 「十字を～」 「ハンドルを～」 「口火を～」

森山 (2012, 2015) では許 (2008)、遠藤 (2008) とは異なり、共起する項を重視した意味記述となっている。「切る」の中心義は⑤のようになるとしている。「切る」は意志動詞であるため格は「(意志を持つ) 人」とし、「道具を使わない」動物は除外されている。また、「分離する」では意味が広くなりすぎるため、「(力を加えて) 分断する」としている。

(5) [(意志を持つ) 人]が・[刃物などの道具]で・[一続きの物]を・[(力を加えて) 分断する]

また森山 (2015: 140-141) では、共起する項を重視した意味記述は意味拡張の様相とその動機づけを明らかにする上でも有効であるとしている。例えば、後掲の表1を見ると拡張義1は中心義0から拡張しているが、ヲ格の項が変化していること、それに伴い、動詞「切る」の意味に「開ける」という意味が付加され、意味の焦点が「分断する」動作からそれに続く「開ける」動作へと移動しており、拡張の動機づけがメトニミーであることが一目でわかる。

森山 (2015) はさらに、森山 (2012) が内省分析で明らかにした意味構造の妥当性を心理実験の手法を用いて検証している。そこで用いられているのは以下の28文である。〈 〉の数字はそれぞれの例文が森山 (2012) のどの語義の例文かを表している。すなわち「切る」は1つの中心義と12の拡張義から構成されているとした森山 (2012) の結果を心理実験で検証したのである。

- 〈0〉糸を【きる】。髪を【きる】。
- 〈1〉缶を【きる】。封を【きる】。
- 〈2〉胃を【きる】。盲腸を【きる】。
- 〈3〉敵を【きる】。腹を【きる】(切腹の意味)。
 〈3a〉政治の腐敗を【きる】。世相を【きる】。
- 〈4〉領収書を【きる】。小切手を【きる】。
- 〈5〉風を【きる】。波を【きる】。
- 〈6〉10秒を【きる】。(合格者が)半数を【きる】。
- 〈7〉疲れ【きる】。冷え【きる】。
- 〈8〉電源を【きる】。電話を【きる】。
 (読む時途中で)文を【きる】。縁を【きる】。
- 〈9〉水気を【きる】。業績の悪い人を【きる】。
- 〈10〉カーブを【きる】。ハンドルを【きる】。
- 〈11〉トランプを【きる】。花札を【きる】。

その結果、「切る」の意味構造は表1、図1のようになったという。表1の左の数字はカテゴリの番号(図1や上記のカードの番号に対応している)、矢印はカテゴリがどこから拡張しているかを示している。例えば0から5が拡張し、5から6、7が拡張している。但しこれらの図表では、3つの下位カテゴリ0a、8a、9aは省略されている。それを加味すると、「切る」は中心義を含めて13の語義と3つの下位語義が存在していることになる。ただし森山(2015)では3aは独立した語義12とされている。

表1 「切る」の意味構造(森山 2015: 152)

			ガ格	テ格	ヲ格	動詞
0			人	刃物等の道具	一続きの物	【分断】分断する
↳	5		人		水・空気	【横断】(分断する)+移動する
	↳	6	数値		基準数値	【減少】(分断する+移動する)
	↳	7	人		目標・限界	【超過】(分断する+移動する)
↳	10		人		カーブ・ハンドル	【断行】(分断する)=力強く瞬間的動作を行う
↳	11		人		カード	【混合】(分断する)+混ぜる
↳	1		人	刃物等の道具	密封した物	【切開】分断する+開ける
↳	2		人	刃物等の道具	患部	【切除】分断する+除去する
	↳	8	人		つながり	【中断】(分断する+除去する)
	↳	9	人		不要部分	【除去】(分断する+除去する)
↳	3		人	刃物等の道具	人	【殺傷】分断する+殺傷する
	↳	12	人	(鋭い言説)	人・社会	【断罪】(分断する+殺傷する)=断罪する
↳	4		人		書類	【発行】分断する+発行する

注) 動詞の列の()はメタファー的に意味が拡張していることを示す

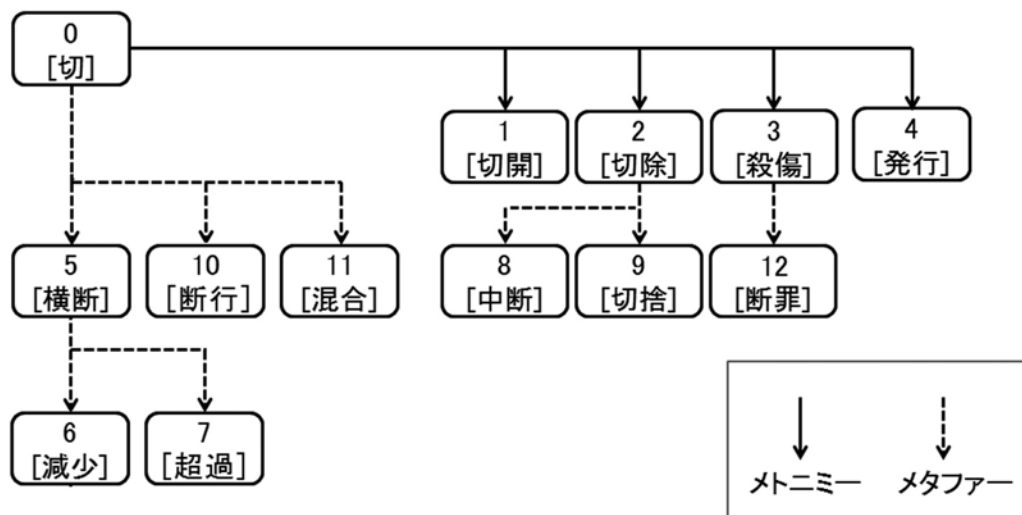


図1 内省・クラスタ分析を総合して考察した「切る」の意味構造

森山 (2015) は、共起する項が重視された意味記述がなされている点、心理実験を用いて内省分析による意味構造の妥当性を実験的に検証している点で評価されるが、その一方でいくつかの課題を残した。第一に、「十字を切る」「見得を切る」「先頭を切る」などが分析の対象から漏れ、用例が網羅されているとは言い難い。第二に、森山も認めているように、同じ中心義に分類されている「糸を切る」「髪を切る」は、文脈により意味が異なり、前者は単に「断断」であることが多いが、後者は「切除」の意味が含まれることが多いなど、語義は文脈により左右されるが、その点についての考察がない。第三に、心理実験を行うにあたり、例文を減らし対象者の負担を軽減するため、語義の下位カテゴリの語義を対象から外した結果、それらの意味構造に対し考察が行われていない。言い換えれば森山 (2015) の残した課題は、第一に文脈を考慮していないこと、第二に用例を網羅的に集め、分析を行っていないことなどが挙げられ、これを解決するためには文脈を有した豊富な用例を分析対象にできるコーパスを用いることが有効であろう。辻・中本・李 (2011) も、内省分析を補完する方法として心理実験とコーパス分析を挙げている。

コーパスを用いて「切る」の意味構造を分析しているのが今井 (2016) である。今井は「切る」と共起するヲ格名詞のうち、頻度が50以上の名詞をコーパス検索ツールNINJAL-LWP for TWCを用いて検索し、国立国語研究所 (2004) の『分類語彙表—増補改訂版』を用いてラベルを付与した上でクラスタ分析により分類している。しかしながら今井 (2016) も認めているように、そこで行われているのは「切る」と共起するヲ格名詞の語義分類であり、「切る」の語義分類でない。例えば「溝」と「堰」とは名詞としては同じクラスタになるが、「(溝を) 彫って作る」ことを意味する「溝を切る」と、「(堰を) 壊して溢れ出る」ことを意味する「堰を切る」とは「切る」の語義として1つにすることは難しい。また「カードを切る」には「カードを混ぜる」と「カードを出す」という語義があるが、ヲ格名詞の意味により分析するこの分析手法では、このような区別は不可能である。さらにこの研究では頻度が50未満の名詞は考察の対象となっておらず、頻度50以上の102語のみが考察の対象となっているため、一般的に頻度が少ない周辺の語義が考察の対象から外れる危険性があり、コーパスの強みである網羅性にも問題を残している。さらに、他動詞の意味に対し、共起するヲ格名詞の意味が最も大きな影響を及ぼすことは事実であるが、森

山 (2015) も指摘しているように、動詞の意味は共起する項全てと密接な関係があるため、ヲ格だけでなく、ヲ格とともに必須項であるガ格、そして「切る」においては重要な項であるデ格をも考察の対象に加える必要がある。

以上のような先行研究の残された課題をふまえ、本稿ではコーパスを用いて用例を網羅的に収集した上で、文脈も考慮に入れながら、語義の分類を緻密に行う。また、森山 (2015) に基づき、意味分析と語義記述にあたってはヲ格とともに「切る」の意味に重要なガ格、デ格なども考察する。

3. 研究方法

本稿では日本語「切る」の用法をできるだけ詳細に分析するため、大規模コーパスを用いて「切る」の用例を網羅的に調べる。今井 (2016) では筑波大学が構築した検索システム NINJAL-LWP for TWC を用いている。これは日本語のウェブサイトから検索語を収集しており、約11億語が検索可能であるが、その一方でウェブサイトからの検索のため非母語話者の日本語も含まれる可能性がある。そのため本稿では検索語はやや減るものの、国立国語研究所が構築した最も大規模な日本語均衡コーパス『現代日本語書き言葉均衡コーパス』から用例を集めて構築した NINJAL-LWP for BCCW を用いて分析を行う。検索可能な語彙数は約1億個である。また今井では頻度50以上を分析対象としたが、本稿では全ての用例 (すなわち頻度1以上) を分析対象とした。さらに、ヲ格だけでなく、ガ格、デ格として共起する項の意味も動詞の語義を反映していると考え、それら全てを考察の対象とした。

NINJAL-LWP for BCCW で動詞「きる」を検索した (2016年7月5日) ところ、「切る」に関係するものとして「切る」「きる」の2つがヒットした (「切る」が13,075、「きる」が1,126の例文)。「切る」は他動詞であることから、「～を切る」「～きる」で検索した例文について、それらのヲ格、ガ格、デ格の項を考察した。その結果、「～を切る」では6,387「～きる」では669の例文がヒットした。ただし「～きる」では「服をきる」のように「着る」の例文が混入していたのでそれは考察から除外した。

4. 結果と考察

4.1 分析結果

その結果、中心義を含め、13の語義とその下に37の下位カテゴリが見出された。なお許 (2008) を踏まえ、犬が道具を使わずに分断する「切る」の用法は、コーパスには検索されなかったが、0bに加えた。これは複合動詞の語義7を除き、12の語義と3つの下位カテゴリしか見出されなかった森山 (2015) と比べても大幅に増加している。表2にその語義の一覧を、表3にコーパスから見出された各語義の例文を示す。「8a/8b」は語義8の下位カテゴリを示し、「8ai/8aai/8aiii」は8aのさらなる下位カテゴリを示している。「3>12」は語義3から語義12が拡張していることを示す。「共起する項の意味」は①でガ格、②でデ格、③でヲ格の項の意味を示し、「[切る/きる]の意味」は「切る/きる」自体が担う意味を示している。「共起する項の意味」では、スペースの都合から中心義と異なる場合のみ、異なる部分を記述し、中心義と同じ場合には省略している。「切る/きる」の意味では、森山 (2015) にない、中心義の「分断する」という意味に新たな意味が付加されるメトニミ的拡張の場合は付加される意味を「+」で示し、意味がメタファー的に変化するメタファー的拡張の場合は「分断する」を()でくくり、実際に表す意味を「=」

表2 切るの意味構造

No.	共起する項の意味	「切る/きる」の意味
0	①人が②刃物などの道具で③一続きの物を	分断する
0a	②刃物などの道具なしに	意識的に分断する
0ai		誤って分断する
0b	①動物が②刃物などの道具なしに	分断する
0c	③2次元的に一続きの物を	分断する
0ci		一部分断する
0d	③3次元的に一続きの物を	分断する
0di		一部分断する
0e	③環状に一続きの物を	分断する
0f	③一続きの物のある場所を	分断・一部分断する
0g		分断する+片側を使う
0gi	③一続きの物の必要な部分を	分断する+使う
0h		分断する+片側を捨てる
0hi	③一続きの物の不要な部分を	分断する+捨てる
0i	③分断した結果（結果目的語）	分断する
1	③一続きの閉じた物を	分断する+開けて中の物を取り出す
1a	③身体部分を	分断する+開けて中の物を取り出す
2	③身体部分を	分断する+除いて治療する
3	③身体部分を	分断する+傷つける
3a		一部分断する+傷つける
3b	③人を	一部分断する+殺傷する
3bi		(一部分断する+殺傷する) = 負かす
3>12	③人・社会を	(分断する+傷つける) = 断罪する
4	③証明書を	分断する+発行する
5	③空気/液体を	(分断する) = 横断する
6	①数値が ③基準数値を	(分断する) = 減少する
8	③連続している流れ/関係を	(分断する)
8a	③電流（電気の流れ）を	(分断する) = オフにする
8ai	③電流のスイッチを	(分断する) = オフにする
8aii	③電化製品を	(スイッチを分断する) = オフにする
8aiii	③機能を	(スイッチを分断する) = オフにする
8b	③その他の流れを	(分断する)
8bi		(分断する) + 止める
8bii		(分断する) + 捨てる
8biii	③その他の流れの中断の結果（結果目的語）	(分断する)
8c	③時間の流れを	(分断する)
8ci		(分断する) + 止める
8d	③人間関係を	(分断する) = 絶縁する
2>9	③不要な物を	(分断する) + 捨てる
9a	③不要な人を	(分断する) + 除外する
9b	③不要な意見/思いを	(分断する) + 除外する
10	③物を	(分断する) = 力強く動かす
10a	③物を力強く動かした結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く動かす
10ai	③物を力強く出した結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く出す
10b	③行動を力強く貫いた結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く貫く
10bi	③到達を力強く成した結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く起こす
10bii	③先頭に力強く出た結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く出る
10c	③始動を力強く起こした結果（結果目的語）	(分断する) = 力強く起こす
11	③カードを	(分断する) = 混ぜる
13	③分断した結果物（結果目的語）	分断する+形作る

注) 森山 (2015) の7は複合動詞「V+切る」の用法のため、除外した。

表3 切るの各語義の用例

0	木/糸/テープ/縄/繩/ロープ/樹木/鎖/綱/木材/材木/藁/ひも/コード/銃身/ネクタイ/丸太/麵/ガラス/帯/幹/柱/樹/管/紙テープ/そば/チェーン/チューブ/テグス/バット/リボン/包帯/木刀/
0a	引っ張って切る/
0ai	鼻緒/
0b	犬が鎖を切る/
0c	紙/板/生地/油揚げ/シート/ハム/ペーパー/和紙/海苔/画用紙/色紙/革/お好み焼き/アルミホイル/段ボール/ピザ/プリント/厚紙/台木/新聞/新聞紙/服/用紙/紙片/絵/襦/面/ストッキング/袖/
0ci	金網/ネクタイ/ストッキング/袖/ジャケット/チョゴリ/
0d	肉/野菜/タマネギ/材料/豆腐/キュウリ/ケーキ/ジャガイモ/スイカ/ナス/大根/キャベツ/ニンジン/ピーマン/料理/薪/餅/いも/ネギ/バナナ/パン/ペットボトル/レモン/具/卵/山/果物/梨/白菜/蓮根/魚/鶏肉/りんご/オレンジ/キウイ/グレープフルーツ/ソーセージ/チーズ/トマト/フルーツ/漬物/物体/石/さくら/羊羹/長ネギ/食材/
0di	土/
0e	リング/輪/指輪/
0f	先/頭/間/角 (かど) /上/両端/下/付け根/先端/側線/端/上部/付近/回り/断面/根元/真ん中/
0g	竹/木/樹木/毛/材/森林/森/
0gi	花/部分/バラ/房/実/
0h	木/茎/爪/髪/髪の毛/皮/枝/頭/毛/前髪/角 (つの) /鼻毛/ひげ/森林/立ち木/林/枝葉/森/袖/黒髪/元結い/榎/
0hi	根/ヘタ/石突き/葉/部分/部/軸/底/一部分/痰/芯/一角/半分/桜/芽/裏/
0i	寸法/小口/
1	封/缶/火蓋/鯉口/堰/幕/アンブル/ページ/殻/吸い口/ふた/袋/飲み口/
1a	お腹/胸/腹部/
2	胃/腸/盲腸/喉/へその緒/皮膚/乳房/ガン/男性のシンボル/ガンの塊/扁桃腺/
3	手/頭/首/指/腕/足/アキレス腱/動脈/耳/小指/尻尾/指先/左腕/筋/舌/腱/脚/ちんちん/神経/血管/
3a	腹/手/指/喉/手首/鼻/腕/身/足/耳/唇/小指/指先/皮膚/額/あご/左腕/胴/腹部/頸/顔/体/眼/肌/脚/顔面/口の中/喉笛/手のひら/目/耳たぶ/背中/角膜/追い腹/
3b	人/【人名】/私/者/敵/相手/自分/へたち/人形/侍/女/馬/一人/人間/浪人/あなた/おまえ/使者/大蛇/奴/将/父/猫/男/親/追っ手/部下/鬼/鬼神/
3bi	エース/選手/
12	【組織】/会社/ニュース/今の世の中/日本の文化/混迷の時代/
4	切符/小切手/伝票/書/チケット/チェック/票/券/手形/
5	風/空/波/空気/宙/春風/碧空/空中/雨風/
6	円/%/割/分/か月/年/日/秒/週間/メートル/度/グラム/キロ/～台/ドル/ひと月/予算/定価/8パーセントライン/
8	線/接続/結合/リンク/核酸/タンパク質/物理的体系/遺伝子/
8a	電気/配線/ケーブル/システム/回線/電流/回線の伝達/放送/映像/
8ai	電源/スイッチ/クラッチ/チャンネル/ブレーカー/ブレーキ/元栓/
8aii	電話/携帯/エンジン/無線/インターホン/ラジオ/テレビ/電気/火/エアコン/ダイヤル/パソコン/暖房/エンジンのキー/受話器/
8aiii	保温/機能/常駐のソフト/予約/摩擦力/動作/
8b	言葉/息/音/文/行/口上/
8bi	話/通話/会話/通信/光/流れ/目線/答弁/千万言/イニング/尿/視線/
8bii	話の結末/
8biii	区切り/区画/句読/
8c	時間/
8ci	期限/年齢/年限/リミット/時限/期日/門限/
8d	手/縁/関係/契約/悪縁/間合い/生活保護/源/水脈/血筋/
9	水気/水/汗/気/油/水分/汗/お湯/湯/昇圧剤/滴/アルコール/端数/粘り/葉/雨滴/
9a	一派/部門/【人名】/
9b	反対意見/意識/感情/
10	シャッター/ハンドル/ステアリング/取り舵/フラッシュ/ボラロイド/
10a	カーブ/旋回/
10ai	牌/カード/角 (かく) /身銭/札びら/ダイヤ/切り札/解散権/
10b	白/見え/大見得/見栄/啖呵/仁義/トンボ/手刀/抜き手/ステップ<ラグビー>/
10bi	口火/スタート/口/滑り出し/対空砲火/
10bii	ゴール/
10c	先鞭/最先端/先頭/トップ/先陣/
11	カード/トランプ/
13	十字/ネジ/溝/歯/銘/印/十字架/写真/ガリ版/切り火/畔/目地/窓/階段/ステップ<登山>/

で示した。例えば、拡張義1「分断する+開けて中の物を取り出す」とは、中心義「分断する」の意味に「開けて中の物を取り出す」という意味が付加していることを示し、拡張義5「(分断する) = 横断する」は、中心義の「分断する」という意味がメタファー的に拡張し、「横断する」という意味になったことを示している。拡張義12「(分断する+傷つける) = 断罪する」は拡張義3「分断する+傷つける」がメタファー的に拡張し、「断罪する」という意味になっていることを示す。拡張義8bi「(分断する) + 止める」では「分断する」がメタファー的に拡張し、さらに「止める」という意味を付加していることを示している（詳しくは森山(2015)を参照）。記述は森山(2015)を踏まえたが、改善の余地があるものは修正を加えた。

また表3では、用例の文全体を引用し記載することは紙面の制約でできないため、共起するヲ格のみを示した。また表ではできるだけ多くの例文を頻度が多いものから順に示すようにしたが、「これ(を切る)」など、ヲ格名詞が代名詞であるものは省略し、例文が1つしか検索されなかったものは、既に類似の用例がある場合は省略し、注目すべきもののみを掲載した。コーパスNINJAL-LWP for BCCWの例文には共起するヲ格だけでなく、「切る」が用いられた文が出典とともに掲載されているが、分類にあたってはそれぞれが用いられる例文の文脈を考慮しながら語義を決定しているため、同一のカテゴリが表3で2か所以上に掲載されていることがある。例えば「手を切る」は、文脈により、「手を切断する」、「手に傷を負う」、「関係を切る」といった意味を表しうるため、表では3、3a、8dの3か所に「手」が記載されている。

分析の結果、森山(2015)の結果は、以下の点で補足・修正が必要である。

第一に、拡張義13が新たに加えられたことである。拡張義13は「切ってできたもの」をヲ格で表す結果目的語であるが、使用頻度の少なさを理由に森山では考察されていなかった。

第二に、中心義0、拡張義1、3、8、9、10には細かな下位カテゴリが存在することである。具体的には、0には14種類、1には1種類、3には3種類、8には11種類、9には2種類、10には6種類の下位カテゴリが分類された。

第三に、細かく用例を分析していくと、森山とは異なる語義に属すると考えられる用例が見つかったことである。例えば森山では「カーブを切る」は「ハンドルを切る」とともに語義10に分類されていたが、「ハンドル」は切る対象であるのに対し、「カーブ」はハンドルを切った結果であり、結果目的語であるため、10aを新たに設け、それに分類した。

第四に、同じヲ格が共起しても文脈により異なる語義を表す用例が見出されたことである。例えば「カードを切る」は、森山では拡張義11に(のみ)分類されていたが、「切り札を出す」の意味に用いられることもあるため、10aiにそれを加えた。

4.2 意味構造の詳細

本節ではまず中心義0内部での意味拡張、続いて拡張義1～6、9、12の意味拡張、拡張義8の意味拡張、拡張義10、11、13の意味拡張の順に細かく述べていく。

4.2.1 中心義0の下位カテゴリの意味拡張

中心義といっても様々な語義のバリエーションが存在している。許(2008)が指摘する、0bの「動物が・道具を使わないで・分断する」のほかに、0aのように「人が・道具を使わず・引っ張って分断する」、0ai「人が・道具を使わず・誤って分断する」が存在する。なお、0aと0bは「引っ張って切る」という点で意味が似ているが、前者は「意識的に切る」のに対し、後者は「結果的に切れる」ものであるため、ここでは別の語義として分けることにした。さらには「一続きの物」といえば通常、細長いもの、すなわち

1次元で直線状のものが想定されているが、実際には細長くなく単に一続きのもの、すなわち2次元のものや3次元のもの、さらには一続きのものが環状になっているものも存在する。また、2次元、3次元になると面が生まれるため、分断して切るだけでなく切り込みを入れるような一部分断も想定しうようになる。さらにヲ格は0fのように、対象物の「場所」を表す名詞となる場合もある。

一方、分断によって一続きのものは2つに分けられるが、0gのように片方を用いたり、0hのように片方を捨てたりする場合も存在する。その場合、一続きの物全体がヲ格になるだけでなく、0giや0hiのように用いられる側、もしくは捨てられる側に注目し、それらがヲ格となる場合がある。0iのように、分断の結果がヲ格となる結果目的語の場合もある。以上を図にまとめたものが図2である。

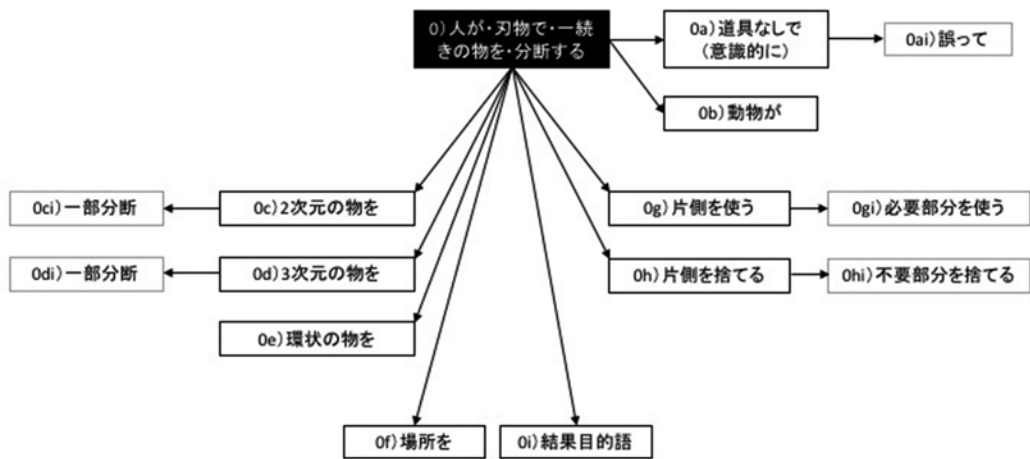


図2 中心義0の下位カテゴリの意味拡張

4.2.2 拡張義1～6、9、12の意味拡張

続いて拡張義について見ていく。まず森山(2015)が指摘するように、0からメトニミー的に拡張し、単に刃物で分断するだけでなく、新たな動作が付加するのが拡張義1～4である。拡張義1は単に分断するだけでなく、分断後、中の物を取り出す動作を伴うが、ここからさらに、「腹部を切る」のように、切開手術の用法1aが拡張している点は森山では指摘されていない。拡張義2からは不要な物を捨てる9だけでなく、人、意見・考えを捨てる9a、9bが拡張している。拡張義3も3a、3b、12だけでなく、森山では指摘がないスポーツ競技などで相手を負かす3biの拡張が見出された。拡張義4～6は森山でも指摘があるが、より広範な用例が示されている。以上を図にまとめたものが図3である。

4.2.3 拡張義8の意味拡張

拡張義8はさらなる下位カテゴリ8aへの意味拡張がなされていることは森山でも指摘があるが、本研究の結果、8a～8dの4つの下位カテゴリが見出され、さらにその下に8ai～8aiii、8bi～8biii、8ciのカテゴリが分類された。8aとその下位カテゴリはどれも「電気の流れ」を分断し、「機能を停止する」ことを意味するが、よく見ていくと、ヲ格として用いられる名詞は、電気の流れ(電流)だけでなく、スイッチ、電気製品、機能と、パースペクティブを異にした結果、ヲ格として言語化する名詞が異なっている。また8bとその下位カテゴリでは電気以外の音、光、言語など、様々な流れの分断を意味するが、分断するだけでなく、その後、止める、捨てるなどの意味の使い分けが存在している。さらに8biiiのように、分断

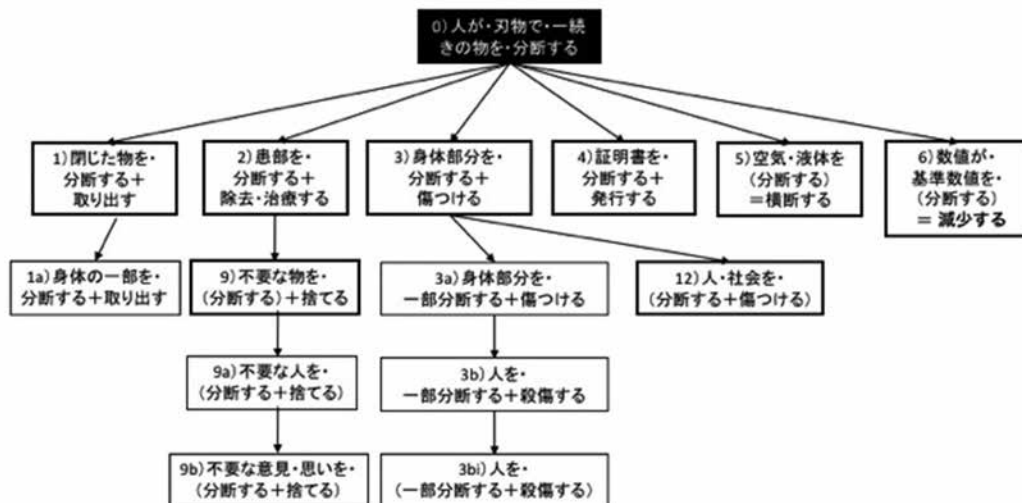


図3 拡張義1～6、9、12の意味拡張

した結果を目的語とする結果目的語の用法も存在する。

8cは「時間の流れ」を分断する用法になるが、ここでも単に分断し分けだけの用法8cと、分断し、流れを止める用法8ciとに分けられる。さらに8dは森山8aに相当する「人間関係」を分断する用法である。以上を図にまとめたものが図4である。

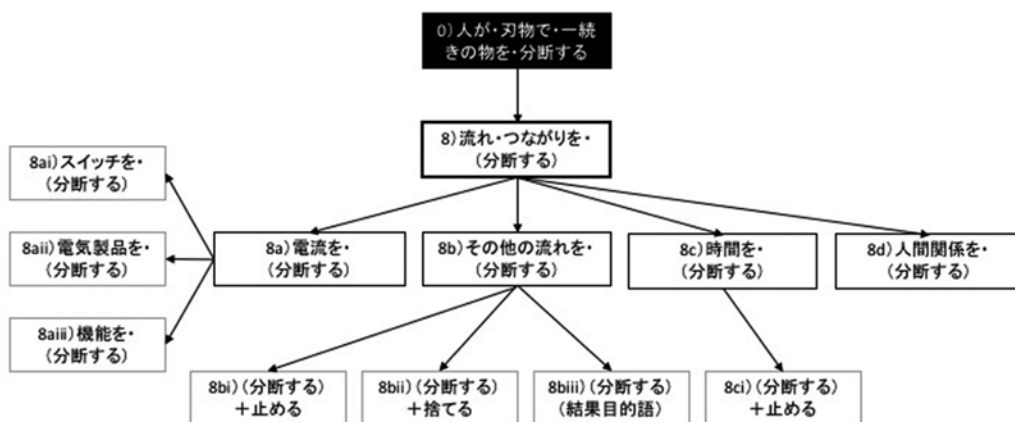


図4 拡張義8の意味拡張

4.2.4 拡張義10、11、13の意味拡張

拡張義10は森山では下位カテゴリが存在していなかったが、本研究では様々な下位カテゴリが存在していた。まず10は物を力強く動かす用法、10aはその結果が目的語となっている用法であるが、森山ではこれらは区別されていなかった。さらに、物を力強く出す10aiの用法は森山では示されていなかった。一方10bは物ではなく行動が力強く行われ、その結果が目的語となっている用法で、さらに細かく見ていくと、行動を起こす、行動を成し遂げる用法がある他、結果としての初動がヲ格になる10cのような用法も見出された。

拡張義11については森山と同様である。ただし、「カードを切る」は文脈により「切り札を出す」の意味も有することがあり、それは10aiに分類した。

拡張義13も森山では言及がない。これもある分断する動作の結果、形作られる具体的、もしくは抽象的な結果物がヲ格名詞となっている用法である。以上を図にまとめたものが図5である。

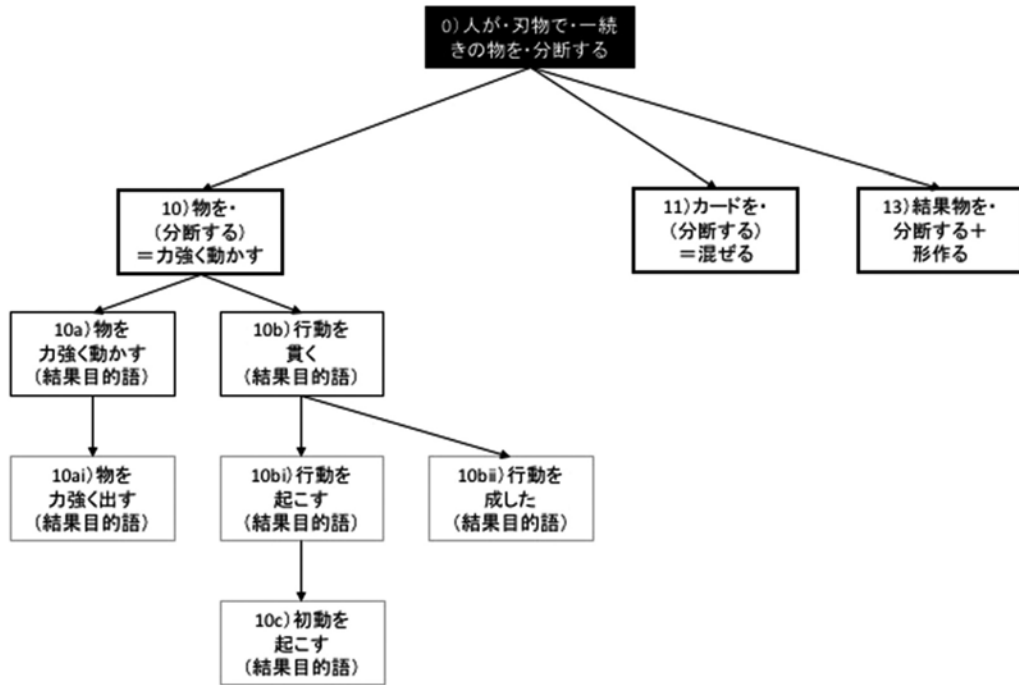


図5 拡張義10、11、13の意味拡張

5. 総合的考察

以上、見てきたように本研究では、13の語義とその下に37にも及ぶ様々な下位カテゴリが存在することが明らかになった。ただしここで注意すべきは、これらの13、37という数字は絶対的なものと考えべきではないということである。言い換えれば、日本語母語話者の脳内に1つの中心義、13の拡張義、そして37の下位カテゴリが存在していると主張したいわけではない。Langacker (2006) も指摘するように、ネットワークカテゴリ・モデルや放射状カテゴリ・モデルなどの意味構造は、ややもすると独立した (discrete) 語義が固定的に脳内に存在し、ネットワークを形成しているように誤解されがちであるが、母語話者の脳内に存在する意味構造は連続的 (continuous) なものであると同時に可変性も有している。したがって本稿で明らかになった細かな下位カテゴリの存在は、Langackerが指摘するように、独立した語義が数多く存在していることを示すというよりは、語義の連続性を示すものであり、より多様な文脈下における例文を収集すれば、下位カテゴリはさらに多くなり、かつその分類はより困難さを極めてくる。言い換えれば隣接するカテゴリ間の境界はファジーとなり、連続性が見えてくるのである。実際本研究でも1次元の0と2次元の0c、2次元の0cと3次元の0dとは境界がファジーであるし、「森林を切る」は、資源としての木材を「切って使う」場合も、生い茂ってしまった森林を「切って捨てる」場合もありうる

など、隣接するカテゴリの両方に属すると考えられる用例が多々存在していた。

6. おわりに

本研究により「切る」の意味構造は、先行研究の主張に比べ、はるかに複雑であり、連続性を有していることが明らかになった。しかし本研究のそもそもの目的である辞書開発に立ち返ると、その複雑で連続的な意味構造をそのまま辞書に掲載することはできないし、すべきでもない。辞書、とりわけ学習者辞典が果たすべき役割とは、母語話者の有している意味構造をあえて形として示すことで、意味の広がりや、それぞれの語義が何故に同じ/kiru/という形式で表されるのか（動機づけ）を示し、理解を促すことである。しかしそうであるからと言っても、網羅的な分析が行われなくてよいはずはない。その意味で本稿はコーパスを用い、「切る」の意味構造を網羅的に明らかにすることで、「切る」の意味構造の全体をより詳細に明らかにすることができた点に意義があると思われる。但し、本研究はあくまでも内省に基づく分析であるため、その分類には客観性が欠けると言わざるをえず、その点については今後の課題としたい。

参考文献

- 今井新悟 (2016) 「クラスター分析による多義語の語義分類」『グローバルコミュニケーション教育センター 日本語教育論集』31、1-15.
- 遠藤裕子 (2008) 「「割る」と「切る」の意味拡張—数値・数量を表す用法—」『拓殖大学語学研究』第117号、57-80.
- 許永蘭 (2008) 「「切る」の多義分析」『言葉と文化』9、303-320、名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻.
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表—増補改訂版』東京：大日本図書.
- 辻幸夫・中本敬子・李在鎬 (2011) 『認知言語学研究の方法—内省・コーパス・実験』東京：ひつじ書房.
- 長友和彦 (1999) 「第二言語としての日本語の修得研究—概観、展望、本科学研究の位置づけ—」『第2言語としての日本語の修得に関する総合研究』（平成8年度～平成10年度基盤研究(A)1）、課題番号08308019、研究代表者：カッケンブッシュ・寛子）、9-41.
- 森山新 (2012) 「認知意味論的観点からの「切る」の意味構造分析」『同日語文学研究』27、147-159、同日語文学会（韓国）.
- 森山新 (2015) 「日本語多義動詞「切る」の意味構造研究—心理的手法により内省分析を検証する—」『認知言語学研究』1、138-155.
- 森山新 (2016) 「上下メタファーの観点からみた動詞「あがる」の意味構造分析—内省分析法の確立をめざして—」『人文科学研究』12、231-241、お茶の水女子大学.
- Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things; what our Categories Reveal about the Mind*. Chicago: University of Chicago Press.
- Langacker, R. W. (2006) On the continuous debate about discreteness. *Cognitive linguistics*, 17(1), 107-151.

本研究は、文部科学省の科学研究費基盤研究(C)「基本多義動詞・形容詞の意味ネットワークとその習得・教育に関する実証的研究」（平成25～27年度、研究代表者：森山新、課題番号25330168）の助成を受けて行われたものである。